

英国だより：The UK Covid-19 Inquiry とは

濱島ゆり (NIHR ARC West, University of Bristol)

英国国内で新型コロナウイルス感染症によるロックダウンが発令された 2020 年 3 月からおよそ 4 年の月日が経とうとしています。

英国では、2023 年 6 月から、新型コロナ感染症への対応と影響を問う The UK Covid-19 Inquiry という審議会が開かれています。当初 2022 年春から始まる予定でしたが、繰り返し延期されて、ようやく開始となりました。

この審議会は、2005 年に制定された Inquiry Act に基づき、英国政府とは独立した形で運営されています。委員長を務めるのは、控訴院の裁判官の経験を持つ、ヘザー・ハレット (Heather Hallett) 氏です。

この審議会には大きな目的が 3 つあります。一つ目はパンデミック中の政府の意思決定過程と対応を明らかにすること、第二にそれらの決定や対応が社会へもたらした影響を広く検証すること、そして総合的な検証結果の記録と将来のパンデミック対応について提言を行うことです。

尚、審議会は、議題に関わる証拠の提出要請や証人の招へいを行う法的権限を持ちますが、審議会中の証言あるいは審議会で至った結論について、刑罰を科すことはできません。同様に、審議結果をもとに行われる提言についても、法的拘束力を持ちません。

英国政府の対応を問う

パンデミックの影響を網羅的に検討するために、医療・福祉・経済に関する問題ごとのモジュールに分けられ、それぞれに調査や公聴会が組まれて審議が進められます (表 1)。2024 年 2 月現在取り組まれているモジュールは、表中の①から⑥についてですが、今後⑦以降の問題についても話し合われる予定です。

モジュール一覧
①レジリエンスと危機管理
②主要な政治的決断とガバナンス
③医療制度における COVID-19 パンデミックの影響
④ワクチンと治療
⑤パンデミックにおける資源調達、医療防護具の調達
⑥医療・福祉セクター
⑦検査とトラッキング
⑧政府によるビジネス及び財政対応
⑨医療の不公平性
⑩教育および小児・若年層における影響
⑪その他公的サービスにおける影響

表 1. 審議会モジュール一覧

審議会では、各モジュールの委員会が、政府の関連文書や意思決定の根拠となったデータなどを調査します。さらに各問題に関連するステークホルダーからの証言を集めるため、公聴会への招へいが行われます。公聴会の様子は公開され、会場またはオンラインで誰でも視聴が可能です。

調査に当たっては、どのような視点で、どういったことが考慮された結果、意思決定が下されたかが焦点となります。このような過程の記録のほか、国際的な比較や対応の妥当性の検討も行われます。

例えば、表 1 に挙げられている①レジリエンスと危機管理では、当時新型コロナウイルス及びその感染症に関する情報や疫学的動向が、どのように政府で捉えられていたかといった問題のほか、緊急事態に備えた政府の構造やリスク管理に関わる団体間の連携状況などについて検証されました。また、パンデミックに対する備えとしてどのような計画立案や資金・資源確保が行われていたか、EU 離脱によるこれらの影響なども話し合われています。

データの証拠の提出については、Covid-19 Inquiry 開始当時の 2023 年 6 月に、SNS 等での閣僚同士のやり取りの記録を証拠として提出するよう指示されたことに反発する形で、現政府が審議会に対してその要請について司法審査を求めました。高等裁判所でその妥当性が問われましたが、同年 7 月に審議会の要請は妥当であるとして、英国政府の主張ははねのけられました。

その後、パンデミック禍の閣僚たちの様子が多角的な記録を通して少しずつ明るみに出ていますが、尚も携帯電話の故障などを理由に証拠の提出を拒否する政治家たちもいます。政治家以外にも、専門家委員会(SAGE)のメンバーや提言を行った研究者たちや医療従事者なども招へいされ、証言を行っています。

パンデミック禍での市民の影響を探る

社会の影響については、どのように検証されているのでしょうか。

公聴会での聴聞のほか、直接一人ひとりの市民の声を集める取り組みも行われています。

18 歳以上の市民に対しては、全国でアンケートの実施が行われています。対象者は、新型コロナウイルス感染症の患者や直接的な影響を受けた人々にとどまらず、英国内でパンデミックを経験したあらゆるバックグラウンドの人たちが対象となります。アンケートの記入にあたっては、多言語や身体障害などを配慮し、複数の様式が用意されています。また、18 歳未満の子供たちについては、別途ヒアリング調査が行われています。

アンケートに記入された内容は、テーマごとに解析され、報告書にまとめられます。また匿名化されたデータは、審議会によってアーカイブ化され、研究や歴史的記録として将来的に活用されます。

さいごに

現在行われている The UK Covid-19 Inquiry の概要をご紹介しました。過去の反省と未来への教訓を促す前向きな取り組みではありますが、パンデミック中に起こった意思決定の過程やその妥当性を網羅的に検証することは容易ではありません。

審議会の公聴会は、遅くとも 2026 年夏までには終了する見込みとされています。三つ目の議題である医療システムへの影響は、今秋から公聴会が行われる予定で、最終的な結論に至るまではまだ長い道のりです。パンデミック中に経験した甚大な被害を風化させず、将来に応用される形で検証・記録されていくことを願います。

参考文献

Clarke, J. "Covid inquiry: What is it investigating and how does it work?". BBC News. 2024-1-31. <https://www.bbc.co.uk/news/explainers-57085964>, (参照 2024-2-10)

Jones, J. “Government loses judicial review on Covid-19 Inquiry WhatsApps”. Institute for Government. 2023-7-6. <https://www.instituteforgovernment.org.uk/comment/government-loses-judicial-review-covid-inquiry-whatsapps>, (参照 2024-2-10)

McKee, M., Hanson, K. and Abbasi, K. (2022) ‘Guided by the science? questions for the UK’s COVID-19 public inquiry’, BMJ. doi:10.1136/bmj.o2066.

Savage, M. “Sunak faces new questions at Covid inquiry after pranksters claim they reached his old phone number”. Guardian. 2023-12-9. <https://www.theguardian.com/uk-news/2023/dec/09/rishi-sunak-whatsapp-messages-covid-inquiry>, (参照 2024-2-10)

UK Covid-19 Inquiry. <https://covid19.public-inquiry.uk/>, (参照 2024-2-12)

UK Covid-19 Inquiry. About Every Story Matters (with British Sign Language Interpretation). 2023-6-12. https://youtu.be/C9ZSy3A_QHI, (参照 2024-2-12)